

平成 29 年度決算総括質疑の概要

※質疑の順番は①露木議員、②野地議員の順に変更となりました。(9月10日現在)

平成30年第3回二宮町議会定例会

日時 平成30年9月14日(金) 午前9時30分より

| No. | 質問議員 | 質問の概要(本人の提出原稿) |
|-----|---------|---|
| 1 | 露木 佳代議員 | <p>平成29年3月の議会では、「予算に町の強い姿勢、ビジョンが見えない」ということ、「町民の力を大切にしてほしい」ということ、「コンサルへ委託している業務は、まちづくりの観点から職員が町独自のものを作るべきだ」ということを述べ、平成29年度予算に反対した経緯がある。決算を迎えた今議会において、4年間の町長自らの評価を含め、今後の考えを問う。</p> <p>1. 教育ビジョンについて 平成29年度の予算では、ずっと住み続けたいまちづくりとして、おもに公共施設の再配置やコミュニティスクール導入に向けた準備など、町のビジョンが大きく関わるものがあった。 さて、今年8月、教育福祉常任委員会では、町内5カ所でシェアにのみやを開催。学区再編成、学校再配置について町民からご意見をいただいたが、どの会場でも言われたのは、「こういうふうにも子どもたちに育ってほしい、という町のビジョンがあれば、自ずと学区編成、学校再配置の方向性は見えてくるし、それに納得すれば、町民からの理解は難なく得られると思う」ということだった。 町の教育大綱の基本理念には『町民一人ひとりの「まちづくりの力」、「地域の力」を活かした「共に学び共に育つ教育」を推進します』や、「世界に羽ばたく人材を育てます」という言葉があるが、二宮町の特性が感じられない。この間、教育関係の事業や取り組みで、町長はどの部分を二宮らしさ、オリジナリティだと考えているのか伺いたい。また二宮の特性を生かした二宮ならではの児童像・教育像を具体的に伺いたい。</p> <p>2. 町民参画、町民参加について 村田町長は、これまで「町民の皆さまのご意見をよく聞く」と言ってきた。それ自体は当然かつ重要なことではあるが、町民の声がどう反映され、どう実施され、どう町民に返されたのかわからないまま、似たようなワークショップが違う課で開催されているように感じる。「なぜ繰り返し同じようなことをするのか、私たちの時間とエネルギーを町はなんだと思っているのだ」と町民から声をいただき、担当に聞き取りをした際「うちの課はうちの課で実施するだけで、隣の課から情報を得ようという発想はなかったです」と言っていた。 改めてみると、町民参加の担当は地域政策課であっても、それは町民活動推進条例や補助金関係であって、全体を総括して町民参加を推進している部署はない。縦割り行政のままそれぞれ町民の意見を聞くのではなく、その声を共有し、循環させ、最大限有効に生かすことを考えなければならない。そうでなければ、町民は町に対して落胆し、関心が薄れ、せっかくある町民力を町にいただくことができなくなる。 そのような現状をふまえ、各担当課が町民募集等を行ってきたワークショップ、意見交換会、審議会などは、町民参画、町民参加に十分に寄与したのか、「まちづくり移動町長室」は前町長が行ってきた「町民とのふれあいトーク」の域を超えたのか、その評価を伺いたい。 また、常設型の住民投票条例の提案や、町民債の検討、市民の条例づくりをサポートする制度、予算編成に対するパブリックコメント制度など、これ</p> |

| | | |
|---|---------|---|
| | | <p>までの町政とは違う施策が4年経過しようとしている今も見えないが、サポートセンターの改善や、市民活動を行う各種団体の整理、補助金制度見直し等ではなく、それ以上の部分で、町民参加・参画について考えていることがあるのか伺いたい。</p> <p>3. 事業の整理・業務の改善について</p> <p>町税は今後も減り続ける見通しだが、国や県から移譲される業務や、今までなかったような新しい事業・業務は増えている。町長の「町の財政をゼロから見直します」という公約は、今ある事業をすべて白紙にし、重要度・需要・コストなどから、町がやらなければならない業務を大幅に絞り込み、そこから積み上げていくことだと私は思っていた。しかし予算編成の見える化も進んでおらず、どのようにスクラップ&ビルドがなされたのか不明である。これまでの評価と、今後どのように事業の整理を進めるのか考え方を伺いたい。</p> <p>職員の時間外手当は「職員の給与に関する条例」に定められているが、実態としては例外なくどの部署にも時間の制限があり、その上限を超える手当は支払われていない。上限があれば、それ以上の勤務時間を正確に記入しないことも想像でき、本当に多忙な課や個人、業務の重要度が浮き彫りにならないと考えられる。先に述べたように、事業の整理には、それにかかるコストの把握も重要であり、1つの指標となる。勤務実態を正確に把握し、適切な量の業務を与え、適正な人員配置を行えば、事業の整理・業務の見直しも円滑に進むと考えられ、また職員の働き方、その意識が大きく変われば、効果的な事業実施にもつながることが期待できる。業務改善を進める意思があるのか、またその手法を伺いたい。</p> |
| 2 | 野地 洋正議員 | <p>平成29年度一般会計当初予算76億7,600万円が、83億5,483万円余の決算を迎えた。予算審査では、総合戦略の基本方針に則って各事業を審査、賛同できる新規事業もあったが、将来の町づくり、財政再建へと大きくつながる「公共施設再配置・町有地有効活用等検討事業」については牛歩のごとくなかなか進まず、お金と時間がさらに浪費されるのではないかと危惧し予算に反対している。</p> <p>総合戦略の中から、以下5つの施策または事業についてその成果を問う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、商店連合協同組合JOYカードとの連携 2、町学童保育の運営委託、民間学童保育補助金 3、公共施設再配置・町有地有効活用事業 4、庁舎整備手法調査委託料 5、駅前町民会館維持管理 |

備考：2番目の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。